

講義名	観光政策論				授業形態	
担当教員	金 承珠	開講期・曜日・時間	後期 月曜日 2 時限			
		単位数	2	履修開始年次	2 年生	ナンバリング・コード
主題と概要						
本授業では、観光政策の概念と意義および観光政策に関する基礎的な知識を修得するとともに観光の経済的・社会的意義を多角的に理解するため、実際に行われている国内外の具体的な政策・施策の事例に加え、地域資源を活用による観光振興を図るための計画策定や観光政策における政府や地方公共団体など様々なステークホルダーとの役割・関係性について解説したうえで、地域の魅力を高めるための観光政策の在り方や今後の動向について学習する。						
到達目標						
1) 観光政策の動向及び課題について、理解できる。 2) 地域資源の保全・持続可能な活用に関する制度及びまちづくり、観光地づくりへの展開について理解できる。 3) 観光政策・計画の意義や策定の考え方・手法について、その基本を理解できる。						
提出課題						
・課題レポートは、提出期限を厳守すること。期限を過ぎた場合は、いかなる事由があっても受け付けません。 ・Ryukaポータルを必ず確認してください。						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
・講義の約10分前に講義内容の理解を確かめるため講義毎に質問・コメント表作成を行います。 ・翌週の講義では前回の講義内容に関する質問等に対してできるだけ回答します。						
評価の基準						
・授業回数の3分の1(5回)以上を欠席すると評価を受ける資格がなくなります。（遅刻は、2回で1回の欠席としてカウントする。） ・課題のレポートは、指定した内容でのレポートを提出。 ・評価については、授業態度（ミニッツ・ペーパー提出等）30%、課題レポート30%、期末テスト40%で総合的に評価する。 毎回の出席確認は、responを用いて実施します。 ・「ミニッツ・ペーパー」の提出がない場合、出席は無効とします。						
履修にあたっての注意・助言他						
・教室内での私語および飲食、不要な出入り、携帯電話の使用などは禁止します。（摘発時退室） ・授業開始から20分後の入室は禁止します。						
教科書						
.使用しない。.						
参考図書						
.なし。.						

その他		
・テキストは使用しない。レジュメや資料中心に授業を進める。 ・講義の理解に役立つ文献や資料等は随時、授業中に紹介する		
授業計画		
1 ガイダンス 2 日本の観光政策の意義、変遷 3 神戸における観光政策 4 観光による地域振興 5 観光が地域に与える影響 6 インバウンド観光と観光政策 7 観光振興と観光政策 8 観光公害、オーバーツーリズムと観光政策 9 観光と責任 10 観光と危機管理 11 観光産業における人材育成 12 観光とクリエイティブ産業 13 今後の観光政策と展望① 14 今後の観光政策と展望② 15 まとめ		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間		
・授業で学んだ内容のポイントを整理してまとめてください。（90分程度） ・予習として、次回の授業範囲をよく読み内容を整理してください。（90分程度） ・復習はレジュメに基づいて、しっかり行ってください。		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
観光政策はすべての観光関連産業の動向につながるため、観光政策論を学ぶことで、目標の（1）～（3）が達成できキャリア形成の理解に繋げることができる。全ての目標に取り込むことで観光政策の概念と意義や観光政策における政府や地方公共団体等の役割や関係性を解説したうえで、地域の魅力向上および問題の改善に関する観光政策の在り方や最新の動向について学習することができる。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
オンライン授業は動画配信によって実施します。授業動画のURL、配付資料等、必要な連絡はRyukaポータルの「講義連絡」で行います。 講義に関する質問に対してはメールやレスポンスでも対応することにします。		
実務経験の有無及び活用		
備考		
シラバスの内容は場合によって変更の可能性があります。		